

### □わたしの意見

## 異人館に

### 思うこと

小松 益喜

〈画家〉



私が神戸に移り住んで、山本通り、北野町、居留地などにある異人館の絵を描き始めたのは昭和7年のことだから、もう40年以上も絵を通して神戸の街をながめつづけてきたことになる。

当時、山の手の北野町界隈や海岸通りの居留地などにはエキゾチックな異人館がぎっしりとつまっていたものだが現在はもう数える程にしかない。戦争中は北野町に住んでいた、ジーベル・ヘグナーさんというイスラエル方がアメリカ軍に異人館の爆撃の回避を要請するなどして保存につとめたが、現在では建物が破損したりとり壊されたりして年々異人館の姿が神戸の街から消えていくのは何とも心淋しいことである。

私はこの40年間というもの、雨の日以外はほとんど毎日山の手に足を運び、異人館を描き続けてきた。その数はもう数百枚以上にも及ぶが、私の半生を通して見た異人館や、そこに住む人達の移り変わりはそのまま神戸の街の変遷の歴史でもあった。

昔はそうでもなかつたのだが、最近はトアロードの方に座って描いていると一時間もすれば頭が痛くなつてくるのは排気ガスや空気汚染のせいであろうか。公害といえば北野町あたりの銀杏の木の葉が昔より小さくなつたし、木立ちも少なくなつたようである。代わりにホテルやアパートが乱立し、異人館の姿がその中に埋没してしまつたのは昔の面影を知る者にとっては残念に思う神戸のこの貴重な文化遺産を大切に保存していくのは市民の責任であろうと思うが、ただこうした異人館のような建物は周りの環境とのかねあいが大切なので、建物だけをきり離して移転し、保存するのは好ましいことではないと私は思う。したがつてあくまで生活の場と結びついた現地での保存方法を考えいくべきであらうし、また建物の修復費などは市で補助をするといつたことも考えてほしいところである。

私は神戸に異人館が失くなるまで神戸を離れないし、死ぬまで神戸の異人館を描きつづけたいと願つてゐる。

美しい時計をつくり続けてきました  
スイスで1791年から……

No.9015 ステンレス側 35,000円  
金張側 35,000円



## ジラール・ペルゴー

永久に正確な時を刻むジラール・  
ペルゴー。香り高い芸術の気品  
をしのばせるデザイン。世界に誇る  
スイス時計の逸品です。

GIRARD-PERREGAUX

特約店  
 美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL331-1798  
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL331-8798

# 隨想三題



メキシコ・トゥーラー

つて、かりに月にゆける時代が来たとして、すべて日本語が通じて月に降りたとたんに「日本ムーン観光」などという看板があると想像しただけでもゾッとする。そんなわけで、ぼくは語学のできないままで、この次は目をつむって地球儀を手でまわし、針をさして当たったところに行ってみようと思つたところに行つてみようと思っている。そしてこれがぼくのペーフォーマンス（行為の美術）でもあると思つている。

このような前書きはぼくの語学のできない弁として受けとつてくられたかどうか知らないが、メキシコはトゥーラーの奥地原住民オトミ族の家に泊りブルケ（竜舌蘭から作つたドブロク）をのみタコスをくわしてもらつたときは本当に弱つた。何しろメキシコシティのこの二千メートルの高原をヒッチハイクで車にのせてもらつて一日中真まるで平原のような山を走りいい加減なところでおろしてもらつたらもうメキシコ語も通じない。通じたところでこちらに分わけはないのであるがやはりさびしい感じがするから妙なものである。タコスというのは、スダコとは関係なくてとうもろこしの粉を丸くうすく焼いてつくつた皮の中に紫色の大粒の煮たのが入つてゐないし、言葉の通じぬほうがかえつて冒險の感じにひたれるのであつた。でもぼくは歴史学者などではないし、言葉の通じぬほうがかえつて冒險の感じにひたれるのであつた。

## 中南米雑感

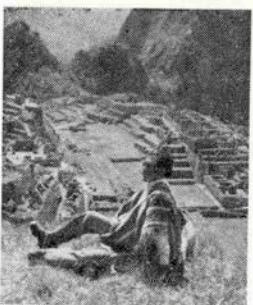
〔画家〕

嶋本 昭三

ぼくは海外旅行がすきで、大洋州をのぞく南北アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジア中近東の奥地などを歩きまわつたといふ話をすると、知らない人は語学がよほど堪能なかと思うかも知れないが、それが、カラキシだめで、今度のアメリカからブラジルへの縦断旅行もヒヤヒヤの連続であつた。でもぼくは歴史学者などではないし、言葉の通じぬほうがかえつて冒險の感じにひたれるのであつた。

肉やたまねぎなど色々入つており、日本のタコスは卵などもつといろいろ入つてゐるが、何しろ一個二、三円くらいのこのタコスにとびあがるほどからいソースをかけてブルケを飲む。犬のように舌を出してハーハーいっているとオトミのオッサンが手をグーとにぎつてその親ゆびのつけねのところに塩をのせてなめるよいと教えてくれた。

ペルーはクスコの町。ここは數千メートルの山々にかこまれ、あの貧弱なピサロでさえもついに見逃したインカ最高地最大の遺跡であるマチュピチユへの中継点である。何しろ富士山くらいの高地なのでいきなり飛行機で着いた人は、一日そこで休むことになつてゐるが、言葉の分らぬぼくはその意味が分らず時間のブランクにブランクしながらクスコの街や、近くのインカの遺跡を見てまわつたが、いやに息切れがする。このインカのつくった石垣はカミソリの刃一枚入るところのないようによつたりと積み重ねられていて、現代の七不思議の一つ、その石垣をうまく使つてつくられたナイトクラブに入つて渡された酒器は何と梅毒患者の顔であり、セックスする男女のびんよりチッチャヤがつぶれたり。インカの時代はセックスや病対策について高い関心がもた



ペリー・マチュピチュにて

れ、非常に明るくこれととり組んで梅毒面の酒器をまわしのみするゆとりとユーモアを彼らはもつていたということである。

## 新平家物語顛末記

山本 芳樹

△山陽電気鉄道事業課長



NHKの「新平家物語」も終った。期待していた一の谷合戦も実にあっけなくすんだ。そしてブルムは遂に来なかつた。

「春の坂道」で柳生の里が観光ブームを呼んだ例に倣つて、新平家ブルームを神戸に招来せんものと意気込んだのはわれわれだけではなかつた。物語の中でも清盛の福原遷都と義経の一の谷合戦は重要なポイントである。ましてこの一

の谷古戦場と景勝の地で知られる須磨浦公園と山上一帯に施設を持つ我々としては、この好機を捉えて大いに旅客を誘致しようと思つたのは当然であろう。宣伝担当員も張り切つてみんなでいろんな案を練つた。

一の谷、鶴越論争はともかく、われわれとしては義経の逆落しの場所はあくまで、鉢伏、鉄拐山の東南斜面で、現在の須磨浦公園一の谷附近である。そしてこの戦線は東は生田の森から西は梅ヶ鼻、即ち現在の当社須磨浦公園駅附近が平家の西の砦であったことには間違はない。従つて公園駅と鉢伏山上の展望閣を平家の砦に設定して矢桶と赤旗を林立させよう。三の谷を上るロープウェイの山上駅前からは、生田の森、和田岬、須磨寺、白い須磨の渚と一の谷、戦の浜、眼下に敦盛塚など源平史跡が一望できるから、ここには案内団体や琵琶演奏入りの案内テープを流そう。展望閣では史跡展を、山上遊苑では源平武者の切出しを斜面にたて、野外パノラマ展を、噴水パレスの春のおどりの一部には直実と敦盛を登場させよう。撮影会も義経ハイキングもやろう。そして、それらを回遊するコースをゆかりの須磨寺とタイアップして、それらを回遊するコースを

しよう。土産品も、青葉の笛、絵はがき、せんべい、記念メダル、ペナントもつくって販売しよう。また、それがための宣伝PR用の各種印刷物も。

今から考えると、どうも始めからツキが悪かつたらしい。三月のある朝、出社すると山上の係長から電話がかかって来た。「課長！ 昨日あげた砦の旗がボロボロになつてしませエ！」「何んやで？」  
 「昨日の晩の風でやられたらしくて、布がもう半分も飛んでおまへんで！ 不細工でつさかい残りの布も取つときまほか？」前日展望閣の塔上に「一の谷砦」と染め抜いた大きな赤旗をわざわざ職員に頼んで押し立てたばかりであつた。それが一夜の強風で破れてしまうとは！。「しゃアーないなアほんまに！ もつたいない。そやけど、取らんでもええでエ、不細工やゅうてもそこは源平の激戦地やつたとこやから、かえつて感じが出てええがなア。お客様がゆうたら（ヘエーなんせ激戦で砦の旗もボロボロになつてしまいましたんやー。ゆうときイー）負けおしみまいところである。

さて、その敗因と考えられるのは、ドラマそれ 자체が当初予想したほど人気を呼ばなかつたこと。

物語の登場人物と場所が多くて興味の焦点が分散させられた。テレビの画面が殆んどセット撮影のため臨場感に乏しく現在との結びつきが稀薄だった。源平史跡めぐりは、年配者が少人数で静かに観賞して往時を偲ぶもので、若人向きではなかった。銭子をかけ、力を入れてやつたのに平家と共に敗北とはまったくなきれない。諸行無常という中で、それでも観光客の増えたのは、生田さんと須磨寺さんはかなわない。

友達のこと

八



「朋あり遠方より來たる。亦た  
樂しからずや」とは論語の一節であるが、この場合の朋は、同じ道を求めるものといつた意味に解釈するほうが深いよう思う。しかし、そう決めてからなくとも、言葉の真理がまったく失われるわけではない。

ところで、私は、昨年十月、神戸で書作展を開いたが、その折、

まこと、その言葉通りの光景が展開され、無類の感激を味わったのであった。書作展の案内状は、北海道から九州まで、書の関係者を中心にして約千五百通を発送した。あり作品の写真を見てもう程度のことになる。それを受け取った高校時代の友人、T氏は、千葉県から駆けつけてくれた。丹波への帰省予定を早めてとのことであったが氏こそ、正しく遠方よりきたる友であり、もちろん私の感激は大きかった。ほんの一刹をともに過ぎたのみで、氏は車中の人となつたのである。

いのである。なぜなら、私も、彼等も、今はまったく異った環境の中で生活しており、お互が何も知らないのである。人生や、芸術や、生きがいについて追求し、ともに励まし合える友を、私は、知己と呼び親友と呼ぶことが許されると考えるのだ。だから、それは、常に、現在にかかる問題である。

今、私の周囲には書友が沢山いる。しかし、彼らの全部が知己といえるかどうかは疑問である。そうした中で、藤本良和氏は、私が知己と呼べる一人である。ところが、氏とは、今日まで数回しか会つていないのである。氏は、昨年京都で、百万円もの大金をつき込んで彫刻展を開いた。その徹底振りは想像のつくところであるが、芸術の何ものかを一心に求め、漂泊を続ける人生の旅人である。氏は、私の書についてあまり語らなかつたけれども、四国から、わざわざ出かけてくれたのである。私は、氏と語りながら、理解をより深めたのである。私は、道を同じくすることが、まったく掛替えのない心の友を生むようと思う。そして、真の友は、結局この上なきライバルなのだと思う。互いに向上升える者こそ、知己と呼ぶにふさわしいと考えるのだ。藤本氏とは、

が、氏とは、今日まで数回しか会っていないのである。氏は、昨年京都で、百万円もの大金をつき込んで彫刻展を開いた。その徹底振りは想像のつくところであるが、芸術の何ものかを一心に求め、漂泊を続ける人生の旅人である。氏は、私の書についてあまり語らなかつたけれども、四国から、わざわざ出かけてくれたのである。私は、氏と語りながら、理解をより深めたのである。私は、道を同じくすることが、まったく掛替えのない心の友を生むようと思う。そして、真の友は、結局この上なきライバルなのだと思う互いに向上升える者こそ、知己と呼ぶにふさわしいと考えるのだ藤本氏とは、そういう人である。

□ある集いその足あと

## 神戸スキー倶楽部

門倉 国夫

〈神戸スキー倶楽部会長〉



スライドや写真をみながらのミーティング

岳地方の山々へ足をのばし、県下丹波但馬の雪のある山へもスキーを通じて登るという当時としては進歩した道を進んだ。スキー技術も暗中模索の時期、冬の登山にはガンジキ・オンリーのなかで、これはとんでもないことであったかも知れない。

そのとんでもないことをしてかした人達の中に神鍋山スキー場の発見者の三木高嶺氏、直木、三木小川氏等と当時のRCCのメンバーの水ノ山、鉢伏山、瀧川山の踏査、妙見山と蘇武岳の初縦走を成功させた直木重一郎、杉浦実、大塚の諸氏があり、兵庫、鳥取、岡山県の雪のある山々の多くを紹介している。

間もなく大陸に不幸な戦火が拡がりやがて戦いは日米の間にまで拡がった。昭和十六年冬、神戸スキー倶楽部自然解散に至る。これを第一期の時代。

戦争中は会員間の連絡皆無。戦争はこれらの若い命を南へ北へと、かい出していった。昭和二十年、戦いはやんだ。戦

このグループを人呼んで六甲スキー倶楽部、神戸スキークラブの前身である。

数年後、藤本九三、三木高嶺、小川正十郎等が中心となり神戸スキー倶楽部として創設。雪と山に心ひかれた人達の集まりは中部山

スキー倶楽部再建の機運がたかま  
る第二期の時代である。

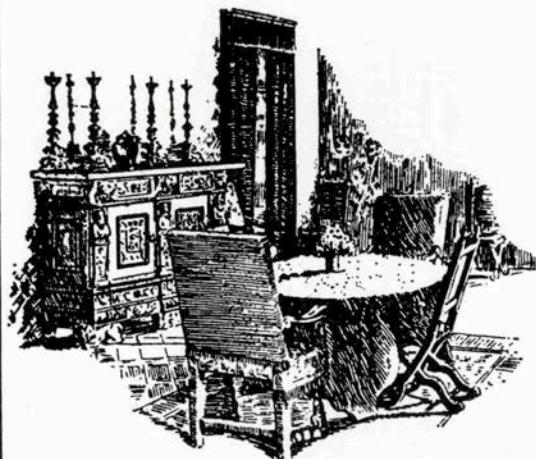
二十九年ようやく一部旧幹事と一名の旧会員との連絡に成功、その承認を得て倶楽部名を復活、昔のツアースキーを重点とする異色のスキー倶楽部として発足。但馬山群を中心とするツアースキーを実施、特に鉢伏山の紹介には全力をあげた。再建後の若いメンバーはその情熱を雪と山に捧げてくれた。

我々もスキー倶楽部の名通りゲレンデスキーもやる。そしてその完成されたものを二十一三十軒のリニューアルをかつて自然の山野でこれを試みる苦しいスキーになる。この苦しさときびしさを乗り越えてきた人達が今のが神戸スキー倶楽部をささえてくれる。筒井、藤本、岡本、本岡、為本、小川、浜、井武、内匠、岡村太美子、臼井匡子等、この若い力は今でも倶楽部の先人達の通つたであろうアーコースを一つ、又一つと滑っている。人影のない雪の山は、と走り廻っている者もいる。

倶楽部再建後十七年、但馬山岳地帯における部員の活躍はここに書かない。何年か先に多くの人達が思い出話として語り継いでくれるものと思つている。

現在の活動人員約六十名（再建後延べ会員三七六名）

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

# 永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511  
{本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35

神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

新しい神戸の銘菓

サクッとしたお口あたりの新しいチョコ

# コウベピア-



10本入 200円 30本入 600円 50本入 1,000円

神戸にそだって75年

神戸  
元町



# 鳳月堂

元町3丁目 TEL 391-2412~5

さんちかスイーツタウン TEL 391-3455

□ ずいそう

# 神戸で飲む酒

田辺 聖子

神戸でもっぱら飲んでいるので、もはや、大阪には足が遠くなってしまった。町ずまいのありがたさ、そして神戸という町の大都会ではないよろしさのおかげで、車で走れば十五分ばかりのところに盛り場があるから、これはちょっと、京・浪花まで足をのばす気になれない。

だいたい私は、何でも自分が現在やっていること、持っているもの、住んでいるところが今までいちばんいい、と思いつこむ結構なクセがある。しかしそれでなくとも、神戸のまちは結構であるにちがいない。あんまりただつぶらしいと遊びにくい。せまい点

が、家の軒でのむみたいでよろしい。へべれけに酔つて、タクシーで十分で帰り、寝床へもぐりこめるなんて、極楽である。

私はたいてい夕食がすんでから、カモカのおっちゃんと二人で出かけるわけだ。このあいだからあんまりつづけざまに出かけたので、何だか子供たちの手前にもはずかしく部屋にふとんを敷き、カーテンを引き、戸をちゃんとしめ、電灯を消して、もう寝入つたて、いにみせかけて外出し、どんちゃんさわぎをして午前一時、そーっと足音をのばせて帰ってきたら、廊下で娘とバッタリあつてしまつたのだ。



酒仲間と『しゃねる』に集う筆者(右)隣り御主人川野純夫氏・マンガ家の高橋孟氏

「アレーツ」

と娘は立川文庫ふうな叫びをあげ、一瞬私をユーレイと思ったそう。

「たって、もう寝てるとばつかり、思てたんやもん……」

と呆れ、一ぺんに私の信用はガタおちになつた。

こういう気苦労をして夜、飲みにくくときもあるのだから、お客様といふものは大事にせな、あかんよ。

食事をしないで外でとるときは、たいてい新開地の聚楽館前のおでんや「高田屋」、すしは「やぶずし」ほかに新開地通りの「百万両」、てつちりを食べるときは「丸太ごうし」、焼鳥は「天竜」、まだあるけれど、新開地はわが家から近いのでよくいく。このあとは、「エース」というバーに寄つて仕上げになる。

ここから車で帰ると五分もかかる。福原のまん中を歩いてぶらぶら帰るのもたのしみなものである。

三宮は食べるところはたくさんあるが、飲む店はたいがいきまつていて、柳筋の「しゃねる」だとか、生田新道の「でっさん」とかである。客をつれていつてよろこぶ店に「セブン」がある。「でっさん」も連れていった人みんなが気に入る店であろう。冬の「キングスアームス」もいい。人につれていつてもらつた店は、たくさんあるのだけれど、そういう店はたいがい、酔つぱらつてゆくので、二度と道のわからぬところがくやしい。

新規開拓をいつも心がけているのだけれど、あたまのハッキリしているときは家にいて、酔つてモーローとしているときに出あるくのだから

どこへいったらいいかわからない、実にせつない。私が、いろんな店を知りたいな、と思つてゐる証拠には、「神戸つ子」にのつてゐる地図に、知つてゐる店はいちいちシルシをつけて喜んでることでも、知れるであろう。

店をえらぶ、というのではないが、やっぱり体調と気分によつて、歌を歌いたいときがあり、そういうときは歌ごえ酒場になつてしまふ。「しゃねる」がそだだというのではないが、何だかここで酔つぱらうと歌いたくなる。而うして、私はこの店ではいつも酔つぱらうから、いつも歌うのである。

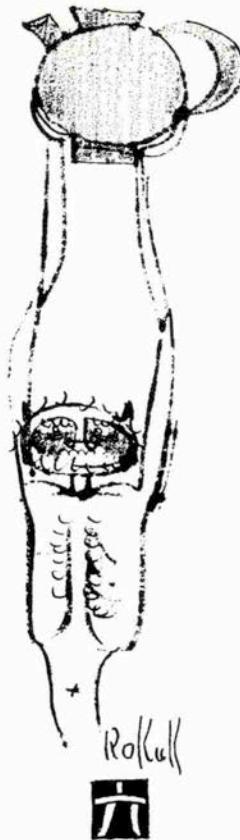
そうして、ひとり静かにグラスを傾けていられる他の客のたのしみを邪魔し、かきみだしてしまふ。どうも中年女といふのはいけない。本人も恐縮している。しかしこれが、言うときかせて話のわかる人間ではないのだ。酔うとあつかましく、団々しく、歌をうたわさなければ、どんなことになるかわからぬ。

いつもの通りおさらいをして同じ歌ばかり歌つて（よくも飽きないことだ）酒を飲んで外へ出るとい、空つ風がびゅうびゅう、高架の上を灯の長い列車が闇の向うへ走つていつて、三宮の空はネオンでぼうと赤くタクシーはなかなかつかまらないから、すこし山手へ向つてあるく。もう市章の灯も消えていて、小さな星が光つていて、よく知りつくした町なみの家々はみんな寝静まつてゐる。

神戸つて、いいなあと思ひながら帰つてくるのです。私の部屋の延長みたいな街なんですね。

# 酒は灘

楠本 憲吉  
え・貝原 六一



俳句の季語に「杜氏来る」というのがある。昔から灘五郷をはじめ、池田、伊丹などの蔵人はおもに「丹波杜氏」といって、丹波の山奥の農民で占められていた。杜氏とは、各地の酒造家のものとへ、近県から農閑期を利用して、出稼ぎにやってくる人々の総称である。

十一月の仕込みにやつて来て、三月に帰るのと、「百日さん」という異名もある。この杜氏は当て字で、本来は「刀自」「家刀自」からきたもの。老母または主婦の意。

杜氏は相撲ならば横綱格。その指揮下に、頭、代師(麴師)、醸(もじ)回り、釜屋、道具廻しその他

いうように専任者の人々で構成されている。沐浴して身を清め、妻子も遠ざけ、女人禁制の場で酒造りに没頭、精進一路の男仕事にからだを張るわけだ。

しかし、今や酒造りも大規模な近代企業となり、冷凍機の発明により、四季醸造の時代になつた。つまり『杜氏来たらず』の時代になつたのである。

神戸空襲で丸焼けになつた御影の酒造地帯は、今や鉄筋コンクリートの巨大な近代工場街と化し、一工場あたり年産五万石のマンモス醸造を誇

つている。

あの昔懐しい大きな仕込桶は、ブルー一色の横式大型タンクに代わった。ちなみに、タンクは二五〇石入り、一升ビンに直すと二万五千本分という。キツネとかウマとかカエル、三味線といったユニークな名称で親しまれていた伝統の酒造小道具もすっかり姿を消し、すべて合理化、機械化されて、人員は在来の工場より半減、坪当たり生産量は三倍という近代的脱皮ぶりである。酒造りの歴史と杜氏の手垢とが染み着いた酒造りの諸道具は文化財として美術館に眠っている——。

エーコンディショナーの完備した工場には近代的醸造機械が配され、酒造という古くさい語意からは、ほど遠い雰囲気である。中央コンントロールの命ずるまま、機械は四六時中正確に活動しているわけだ。

私の少年時代、御影や東明の浜には大きな仕込桶が干し並べてあり、酒蔵の並ぶ路地にはひんやりと酒の香の漂う、静かに漬んだ落着のある町並みであった。

そういうた古い町の姿勢は消えたが、やはり、灘といえば、誰しもが芳醇な酒の香りを思い浮かべるだろう。

一体、この「灘」とは、どこかというと、神戸市の灘区から西宮市にかけての沿岸地域のことをいうのだが、かつては「灘目」と呼ばれていた。灘辺の転訛だろう。ここに近世中期、十七世紀以降に清酒造業が発達し、今日まで有数の酒造地帯として全国に名を馳せてきた。その中心がいわゆる灘五郷で、今津、魚崎、御影、西郷、西宮の五地域ということになる。

この地に酒造業が発展した主因は、なんといつても宮水に恵まれてることだが、他に、摂海の湿気、廻船に便利な立地条件、六甲の寒風、丹波杜氏の技倆、吉野杉の香、摂津の米などがあげられよう。

「宮水」は西宮市の海岸から約一キロぐらいい離れたところ、東西五〇〇メートル、南北一キロにわたる小地域の地下五七六メートルのところに湧く。この水は、もともと夙川の伏流水だが、地下水の貝化石のカルシウムを溶かして硬水となり、さらに宝塚方面から流れ込む炭酸分や六甲山の花崗岩層を通過していく鉱物質を含む地下水、これが地に海から浸透していく塩分を含んだ水、これが地下でまざったものである。

宮水の特長は、他地方の水と比べてリンの含有量が約十倍もあることで、これは酵母菌の繁殖にきわめて有利とされている。酒造米中のリンを含めると、酒を造るのに申し分のない量になるわけである。これに対して、鉄分の含有量は他の三分之一しかなく、これも酒質によい影響を与えるのだそうだ。しかし地下の浅いところを流れるため大雨などの影響を受けやすいこと、また海岸に近いため、水を汲みすぎると海水の浸透が多くなり塩分が強くなるという厄介な点もある……。

最近では、阪神高速道路、山陽新幹線、それに鉄筋ビルの建設などで、宮水を生成している表層地下水の流路を断たれてしまいかと灘五郷のメーカーは神経をとがらしているようだ。

現代の醸造化学の力をもつてしても、いまだに解明できないいる宮水の神祕があるかぎり、左党にとっては、この古さをいつまでも保守してほしいと切に思う次第である。

（俳人）

# ブラジル

## 無宿

津高和一

〔画家・大阪芸術大学教授〕



おもえははるばると長途の船旅だった。一ヵ月半も海ばかり眺めての生活は、もう再びくり返したくはない、というおもいが、サントス港の黒い荷揚人足たちがうろうろしている岸壁に船が着いたとたんにおもつたものである。

僕はこの渡航の以前五、六年前に、一度このよ

腹の中では、何をぬかす、とおもつたものである。外国に出ることがそんなに必須科目のようにもおもえなかつたし、また、行く気になれば機会はいつもあるとおもつていたからでもあつた。

日本の抽象画家の生活は、そんなにかんたんに反対給付を受ける状態ではなかつたのである。わが身を食つているようなものだつた。わずかばかりの伝来の土地を手離したのもその頃だつた。

先ほどの友人のこともその時の話であつた。そ

友人のAが『借金など返済せんと、外国へ思い切つて行つてこいよ、そやないと一生行けんぜ』となかば煽動的な言葉を提示してくれたことがあつた。

だが、気づかってくれるのはありがたかったが

トス港の岸壁の風景を甲板から眺めながら、回想

は以前のそのことを思い出して、航海中の最初の寄港地サンフランシスコ、ロスアンゼルス、パナマ、キュラソ、カラカス、ペレン、リオ・デ・ジャネイロと南下するにしたがつて、風土や人間習俗も変わっていったこと。また停泊中の何日かを、荷役が終つて出帆するまでの短い日時を待ちかねたようにして、それぞれの港街に上陸して歩き廻つた。

坂の多い街を走つていたサンフランシスコの市電、ゴールデンゲイトが対岸で煙つていた霧のこと。ロスアンゼルスの日本人街のすし屋のカウンターが変に高かつたこと、崩れた壁に貼つてあった長唄教授の看板、病院を経営していた女房の叔父（医師）の家に旧い日本紙幣の貼つた屏風、一晩中眠れなかつた街道ばたのモーテル等、最初の太平洋の寄港地であるだけに印象が鮮明だつた。連れられてタラップを降りていつた岸壁の倉庫群の暗灰色の空のことも忘れられない。

パナマでは各国の国旗の色彩が古風な運河に映えていたこと。キュラソ島ではうす暗い土間で、あの変形の酒瓶にラベルを貼つていた室内仕事の黒人の女工たちのこと。リオ・デ・ジャネイロでは思いがけない日系の画家だというマベ・マナブ氏等が船まで訪問してくれたことなどが、まるでフィルムを逆転するように一気に反転するのであつた。

かねてブラジルでは、いらいらしたほうが負けだと聞いていた。なるほどその意味がじわじわと身辺で察知された。

船のタラップの下で立哨している税関吏と出迎

人の誰かがしばらく交渉していく握手を交して上ってきた。なるほど、そうかと思うのである。

かねてこの国はアミーボ（友人）とクルゼイロ（貨幣）が先行すると聞いていた。結局移民たちの下船は税関構内の待合室で翌日となつたらしい、というのは、半公用的な僕の旅行目的のため、領事館家族の同船者と一緒に一足先にサンパウロの街へその夜のなかに迎えたからである。

僕の止宿したのは、ホテルニテロイという日系人経営のホテルで、三階以下の日本映画館も同じに経営者というわけだつた。

ガルボンブエノ街というこの辺一帯は日本人が多く住んでいた。

ごみごみしたロスの日本人街とどこか一脈通じるものがあった。日本の食料品、衣料、書籍から食堂、バール（コーヒー、酒、煙草、雑貨類販売）から料亭と称する昔の日本のカフェーのようなものまでが完備していたのである。

僕はここで意外なことに気づいた。それはサンフランシスコやロスなどで出逢つた日系人たちとどこかが異つてゐることであった。

なるほど、北米の日系人たちは立派な体格をしていたがどこか精気が欠けていたようにおもえたのだが、上陸以来ブラジルの日系人たちは元気がよいことだつた。それに鋭い眼をしていることだつた。これは柔軟な日本の移民たちと同船していだからよけいに感じたのかもしれない。僕は誰にもこのことは喋ることはできなかつた。

愛の心  
こぼれ落ちた  
ひと粒のパール



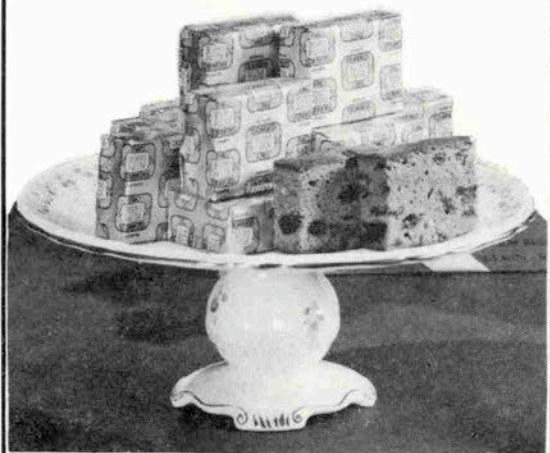
北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

## シュガレスケーキ

新発売!!

含有砂糖ゼロ  
「健康食品」



シュガーレス プラムケーキ

ドイツ菓子

Fuerlein's

ユーハイム

本社 三宮 生田 神戸 前 TEL (331)1694  
三宮店 三宮 大丸 前市 電 筋 TEL (331)2101  
さんちか店 三宮地下街スウィーツタウン内 TEL (391)3539  
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL (251)0139

# 問われる神戸の未来像

□出席者 〈アイウエオ順〉

石井

一

衆議院議員・自由民主党

浦井

洋

衆議院議員・日本共産党

河上

民雄

衆議院議員・日本社会党

渡部

一郎

衆議院議員・公明党

今日は兵庫第一区、すなわち神戸から当選されました四人の代議士の方々にお集りいただきましたので、神戸とのかかわりあいやこれから課題などについていろいろとお話をうかがいたいと思います。

## ★神戸と私

浦井 神戸とのかかわりあいといいますと、私は神戸から離れたことがないんです。親代々といいますか、西神戸で生まれ育ちましたし、学校は小学校、中学校、大学とすべて神戸です。神戸を離れたのは昭和二十一、二年ですか、医大の予科が篠山にございましてその時に神戸を離れたぐらいです。それと三年前に初当選をして週に四日ぐらい東京にいるのが神戸を離れた時です。厳密にいえば、狭い意味の神戸というのは兵庫、葺合、生田の辺が神戸ですね。私の生まれて育ったのは長田区ですから広義の神戸でしょうね。

渡部 私は神戸へ移ってきたんです。中国の大連連市で生まれた奉天で育ったんです。16歳の時まで中国にて、それから引揚げてきたんですが大学を出てから、神戸へ戸籍を移し、現住所を移し、昭和38年頃から定住するようになりました。考えてみれば私は、いろんな所を移動しましたけれども、神戸は本当にいいところですね。親代々神戸にいらっしゃるという浦井先生のような幸せな

かたは半分ぐらいなんですね。（笑）あとのかたは親は別で生まれも別で、後に神戸へ越してこられたという方が非常に多いんです。だから私はいつも「移住民代表だ」といつて笑うんです。（笑）そういう意味で、神戸にきて感激していることがあるんですが、その一つは食べものが新鮮で美味しいということです。もう一つはもの値段が比較的安いということです。東京暮しの時とくらべると神戸は二割は安い。これは感激でしたね。それから神戸の人情と、合理主義といった感覚がいいですね。

## 河上

私は灘区の原田通りの辺で生まれたんですが、現在は長田区の大谷町、すなわち西代の市民グランドの上に住んでいます。私、神戸で非常に感心するのは、神戸というのはよそからきた人がすなおにソーッと入れるような街なんですね。特に外国人を見ていてと東京なんかですといかにもよその国にきているといった感じなんですが、神戸の外国人というのは自分が神戸っ子だと思って街を歩いたり生活したりしているようですね。その辺が神戸の一つの特色じゃないかという気がします。

## 渡部

排他的ではないですね。

石井 私は生まれたのが須磨ですし、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学とも神戸です。今までの三〇数年間の



石井 一氏

政治家の責任でもあると思っています。第二に指摘できることは神戸の産業なり経済が今からはずしも上向きの調子ではないということです。やはり住みよい街というのはかなり長期的な計画のもとにでき上つてくるもので急にできるものでもあります。明治の先人が築いてくれた住みよい神戸の街も、今や環境破壊と経済の斜陽化というビンチに悩まされているわけですが、これを以後どうしていくかは政治家をも含めた神戸っ子の英知を集めて考えていかねばならないと思います。



浦井 洋氏

人生の中で一時外国へ出ていた時を除けばほとんど神戸に生まれ育ったわけですから自分はきつついの神戸っ子だという意識ももってますし、誇りも感じています。神戸は住んでみるといろいろ不満はあるし、また、住めば都という意味で満足感もあります。やはり他の都市とくらべると非常にユニークな個性のある街だと思います。東京ほど人が多くなると地域意識もなくなるし、いろんな点で住みにくくなつて。その点神戸は日本の中でも一番住みやすい街の一つでしょう。その背景には美しい六甲山もあるし、だいぶ汚なくなつてはきているが海もある。今後もそういう自然を守るということはわれわれ

人生の中で一時外国へ出ていた時を除けばほとんど神戸に生まれ育ったわけですから自分はきつついの神戸っ子

だという意識ももってますし、誇りも感じています。神戸は住んでみるといろいろ不満はあるし、また、住めば都という意味で満足感もあります。やはり他の都市とくらべると非常にユニークな個性のある街だと思います。東京ほど人が多くなると地域意識もなくなるし、いろんな点で住みにくくなつて。その点神戸は日本の中でも一番住みやすい街の一つでしょう。その背景には美しい六甲山もあるし、だいぶ汚なくなつてはきているが海もある。今後もそういう自然を守るということはわれわれ

#### ★今日の選挙と実現したい施策

河上 この間の選挙はみなさん一緒に戦ったので共通の感想をお持ちのことだと思いますが、それについてもえらい選挙でしたね。(笑) 当選ラインが以前の六万五千票から九万五千票へと三万もはね上つて、選挙というのは勝つても負けてもこわいものだという気がしました。これは一つには都市部と農村部とで定数が非常にアンバランスになつてきているんですね。今までは農村は少数激戦で、都市部は多数乱立という傾向があつたのですが、今度の選挙では都市部でも少数激戦になつたために定数のアンバランスというのが投票結果の中に出でてきたよな気がしますね。私は選挙を通じて自分一人の力は非常に弱いもので、みなさんのおかげでここまでたどりついたような感じがするのですが、選挙最中に板宿の近所でバスを待つて列の中に小学校の二年ぐらゐの女の子だと思うんですが、宣カーラーがきましたらその女の子がお母さんの手を振りきつて車道へ飛び出してきたんです。なにごとかと思つて車を止めました



渡部一郎 氏



河上雄民 氏

ら、私の手の平に十円玉をくれたわけです。こんなかわいいカンパは生まれて初めてでした。こういった市民の気持を複雑な政治の中はどういうふうに生かしていくかはこれから私の達に課せられた責任だと思います。

これからどういうことをやっていくかについては党の方針を具体化していくことになるんですが、公約した公害対策、社会保障の充実のために努力したいと思っています。特にお年寄りの医療費の無料化、三歳児以下の医療費の無料化、妊娠婦のための施策などに力を入れたいと思っています。

選挙の感想といいますと、先程河上先生がおっし

やいましたようにえらい選挙でしたね。選挙技術が優秀力のある政治家を当選させるために激烈であるならないと思うのですが、ある意味ではそういう資質とは全く関係のない部分の技術開発が行なわれている。たとえばポスターをどうするかとか、ポーズをどうするかとかといった問題に重点が置かれすぎている。本当の政治家の資質を選ぶという点では、意味のない部分に重点がかかるでいることについて、私は選挙を根本的に考えなきゃなくてはいけないと思います。もう一つは選挙は不合理である、という感じを避けられないですね。というのは、力のない人、権力から遠い人は政治的な表現をするのに非常な労力とエネルギーがかかり結局負けてしまう。世の中は権力のある人、お金のある人のいう通りになってしまって、という面が政治の場合露骨出てくる。私はそれを痛感してます。それが選挙というのにお金がかかりすぎるのです。私はそういった方々の意見を代弁しなくてはいけないと思いますし、私もやる意思はあります。ですが、そういう人たちは組織力とか金とかをもたないために、政治的表現ができない場合があまりにも多すぎます。こういう不合理な状態や不満は議会民主主義を根底からぶちこわすエネルギーになってくる。そういう意味からもこのような選挙制度は変えないといけないです。

実現したいことは公約でのべたことを誠実に実行することです。党の基本路線の自由とヒューマニズムを守るためにやるわけですが、特に私は、今後の重要な課題である民族の生存をかけた公害問題へ

の対決にとりくみます。それから経済成長第一主義の日本政治を福祉第一主義に切りかえることです。

**浦井** 確かに今度の選挙はきびしかったですね。だから通していただいてからの後の期待がまたのすごいんですね。当選した翌日だけで、数えてみましたら六十七通

もの電話がかかってきたんです。三年前にはそんなことはなかったんですが、その電話の半分位は名前を明かさずに難病公費医療の実現とか、安い家賃の住宅を建てほしいとか、それぞれの方々がもつておられる切実な要求、要望を生で電話でぶつけてこられるんです。通つたけれども責任は重大だなあという感じを三年前にくらべ非常に強く感じましたね。

私のところは窮屈的には全国一区比例代表制ということを主張しているわけですが、さしあたっては定数は正をやらないといけないと私は思います。もしそれができるとかも現在のこの中選挙区制といふものをそのままづけていくとするならば少なくとも府県単位の比例代表制、すなわち一府県を一つの選挙区にするぐらいの形にしてできるだけ正確に民意が選挙に反映するといった形をとるのが民主主義の基本ではなかろうかと思います。小選挙区制というのは無効票がたくさん出でますので民意を正確に反映しないからいけないです。

私のやりたい施策としては選挙中に公約をさしていたいたように、神戸を含めて全国的に住民本位の住みよい国土建設を基調にしてやっていきたいと思います。それから私は医者でもあるわけですが、健康保険制度がもう壁にきてどうにもしようがないので、患者の側からも医者の側からも使いやすいような健康保険制度に変えていくといいますか、抜本的に改正していかないといけないと思っています。そして難病、乳幼児、お年寄りといった人たちに対する公費医療制度を充実させたいし、特に都会で今問題になっている救急医療体制を国の援助のもとに自治体が責任をもつてやるようになっていきたいと思います。社会福祉の問題は障害者の医療、仕事、教育を保障す。

するといったことが大事ですし、年金も積立方式から賦課方式に変えないといけないですね。また選挙のいろんなアンケートをみても一番関心の高いのは物価の問題ですから物価の安定というのは火急の問題だと思つています。

そのためには国会の権能を最大限に發揮できるような措置をとつて物価の安定に努力するつもりです。

**石井** 従来神戸は革新勢力の強い街ですけれども今度選挙をやりまして自民党が私一人になってしまって、自民党も都市政策や日常生活活動というものを改めなければいけないと思い、大いに反省を感じています。

それから今の日本の政治家の平均年齢は六〇歳ぐらいですが、神戸選出の代議士の平均年齢は四〇歳ちょっとなんですね。そういう意味で神戸っ子というものは目先きが利くというか、非常にシャープな感覚をもつていると、いうことを選挙を通じて感じましたね。ただ投票率が六〇%をきれいでいるということは一〇人のうち四人以上は投票に行つていません。私はやはりこの中には若い神戸っ子が多いんじゃないかと思うんです。もっと強力に一票、一票行使していただかないと、せつかく若い代表を選んでくれている神戸っ子でもあるから、政治をもつときびしく監視していくだくと同時にもう少し積極的に政治への参加をしてもらいたいと思ういます。

私も現在の選挙制度には矛盾を感じますし、定数の是正はやらないといけないと思います。それと選挙の時にいろいろな公約をきいても実際にはそれがあまり実現されず、一向に変わらないじゃないかというのが政治への不信としてあると思います。私がこれからやろうとしていることは都市の声を十分に代弁するということです。前にも申しましたが神戸は住みよい街ではあるけれども、今ピッチに直面しています。このピッチをチャンスに切りかえていくための具体的な発言、行動をしていきたいと思いますし、神戸の美しい自然を守り、国際港

都としての機能を十分に發揮するための街づくりをしていくのが政治家としての責任であると考えています。

### ★これから神戸の姿

浦井 神戸の街に限らず、街というのは人間が住むところですから住民が平和に豊かに安心して住める街にしていくことが大事ですね。神戸は明治維新以前は寒村であったわけでしょう。明治以後は開港に指定されて特異な発展をしてきたわけですが、港というものは神戸のシンボルですから神戸港が平和な貿易港として繁栄していくということに基調をおかないといけないと思います。ただそれには、そこで働いている人たちが安心して働くような労働条件や厚生施設を整えないといけないです。

それから神戸は海と山の自然環境に囲まれた街ですから、この海と山を美しく保全していくのが我々神戸市民とともにそこから選ばれた国会議員の大きな責任だと思いまますね。私としては公害をきびしく規制しながら瀬戸内海環境保全に努力していくかと思います。

山については実は六甲山頂に米軍の通信基地がありましてこれを撤去すべきだと思います。最高峰に基地がありますので、アルビニストにいわせますと最高峰に登山者が行けないというのは山として台なしだというんですね。そういう意味からも六甲山頂の米軍基地の撤去、そして六甲山を緑の山にするための保全計画をたててそれを実行していきたいと思っています。

渡部 街については、むやみやたらに幹線道路を市街地にして公害だけを残すようなことはやめて住民が安心して快適に住めるような街づくりをやっていきたいですね。それから今まで陽の目をみなかつた中小企業を主体とした地場産業をもつと発展させるような措置を講じていかないといけないのでないかと考えています。

浦井 神戸市の面積を調べないといけないです。神戸市は琵琶湖や淡路島や東京都とほぼ同じぐらいの面積なんですね。東京都は最高の失敗例で、そこに一千万

人もつっこんじやつたんです。これでは道路がだめ、緑がだめ、空気は汚ない、こういう都市づくりをしてはいけないわけです。ところが神戸市というのは六甲山から南側は東京都みなみの過密状態で、北側は過疎地域に等しいような状態なんです。神戸は日本の一つのパターンのようになつて、過密、過疎問題がこの小さな市の中になりますから、背後の開発によって八〇万の人口がここ一〇年ぐらいいの間に増えるであろうと予測されますが、へたをすると人口がさらに三百万、四百万と増える可能性もあるわけです。ですから神戸市の行政で今一番大事なことは人口を増やすことです。人口増加に今のうちブレーキをかける施策をとらないと、神戸は住みやすいというので人口が増えすぎて、日本でも最も住みにくい街の一つになつてしまふ恐れがあると思います。

二番目に神戸市の中心である生田区と葺合区ではドーナツ化現象が起りまして人間が少なくなっています。市街地改造計画でいつも遠くへ追いやられるのは貧乏な病人の多い層なのです。ひどいのは港で働いている人たちの宿舎を六甲のかなたに造るものだからそういう人たちは山のかなたから港まで遠々と通勤してくるわけです。ですから市街地改造計画の原則は住民地域を含んだオフィス街にしなくてはならないということです。そして通勤距離を縮めていかないと交通は混雑し、料金は増えなくなつてくる。

それから神戸は国のやる施策を先取りして、文化的、福祉国家的政策を早くやつもらいたいですね。そのためにには地方自治体への権限強化、財政の拡大をやっていかないといけません。これは神戸の皆様に選んでいただきたい国会議員としての、私の大きな仕事だと思つています。

河上 渡部先生もおつしやつたようにこれから人口がどのくらいになるかということが大きな課題でしょうね。外国の例とは比較しにくい点もあるのですが、西ドイツでは百万人以上の都市というのは非常に限られていて、

だいたい六〇万ぐらいでも大都市の風格はもつてゐるわけ

です。日本は百万から二百万ぐらいでないと大都市でないといつた感覚がある。都市としての風格をもつにはかならずしも人口が基準ではなく、そこに住んでる人たちがどういうふうに生活をエンジョイできるかということにかかってくるんじやないかと思います。

神戸は大阪や京都が近くでどちらかというとそれで間に合つちやることもある文化的施設がなくとも神戸の市民は今まで平気でてるんですね。しかしこれは将来大きな問題になるんじゃないんです。というのは今まで港や重化学工業などで男性的な都市として伸びてきたのですが、今後同じような姿勢でやつていけるかどうか、それとも別な形で文化的な都市として立っていくかむづかしいところですね。

第二に神戸の街は家なみが低いということです。もちろん東京でも平均すると一・七階ぐらいなんですが、それでも非常に高層ビルがたくさんあるわけです。神戸の場合それが少ない。結局人口が増えてくるとどうするかということにもつながってくるのですが、裏六甲の開発でも市街地のあふれた人口をそこへもつていくといつた感じが強くて、そこに新しい町づくりの理念は感じられないんです。

それから新幹線が次第に伸びていくと、一方では栄える街と、他方では衰える街とがでてくるんですね。おそらく名古屋は将来本社機能というのがだんだん失くなつてくるでしょう。自動車産業などがありますからまだまだ栄えるでしょうが、やはり管理機能というものは次第に衰えてくるでしょうね。

神戸も今のところ新幹線が岡山止まりだからいよいよなもの、これが九州まで伸びたりしますとどうなるかわかりませんね。

神戸の財界の人は経済的な地盤沈下だといわれていますが、そういう方々が川鉄の営業部門をみんな大阪にもつていったりして神戸に一番大事な本社機能を衰えさせ

せているわけです。

したがつて交通の便がこれからますますよくなつていくにつれて、これから神戸をどうするかということを真剣に考えなければならない転機にあるといえるでしょう。

**石井** この前国鉄の駅弁の調査をした時に、それぞれの都市のイメージ調査をしたんですが、神戸のイメージは工業都市ということなんですね。

われわれはもつと文化的な国際港都だと思っているけれども、一般的日本人は神戸を工業都市だと思っているようです。その背景には鉄鋼や造船や港湾というものが有るのですが、その機能は徐々に下がりつつあり、それが神戸経済の斜陽化といわれてるんですね。それで神戸が三〇年先、五〇年先にどんな都市になるべきかを考えた場合、一次産業にも二次産業にもあまりたよらない、いわゆる第三次産業、知的産業集約型の情報産業都市というものが将来の神戸の姿として位置づけられるんじゃないかと思います。

一次産業のようものは今でも一部しかないんだし、川鉄とか神戸製鋼とか三菱とかいったものに神戸はたよつていく都市でもない。もう少し情報を集め、人を集め、財を集めるけれどもそれは三次産業のものであつて公害を除去しながら福祉社会を実現していく政策の転換をしないといけないでしよう。

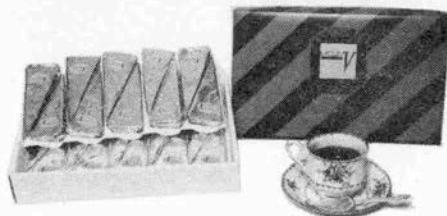
私の考え方としては、神戸は西日本の玄関口として、国際港都として、世界へつながる窓口として、陸も空も海もあらゆる観点から他の都市にないユニークな機能を発揮できるような街が将来の神戸の姿でしよう。

基本的に流通都市、情報産業都市を長い眼でみて神戸に建設していかねばならないだろうと思つています。

（オリエンタルホテルにて／文責編集部）

♡ 2月14日はバレンタインディ

とろける想い  
とろける味  
若い二人のラブタイム



ユーコン・ブイ ¥1,000・2,000

2月14日、バレンタイン、あなたからの方に。  
彼とのひととき、ユーコン・ブイは愛の使者、キュートなハートの橋渡し、今年こそユーコン・ブイで、彼のハートを射止めよう!!



北欧の銘菓  
**ユーハイム コンフェクト**

41

本社・工場・熊内店 ■ 神戸市兵庫区熊内町1(市立美術館東隣)

TEL 221-1164

三宮センター街本店 ■ 神戸市三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン)

TEL 331-2421

さんちか店 ■ 神戸市三宮地下スイーツタウン

TEL 391-3558

そっと包む男らしさ

気品と格調 O-SHIBATA



**O-SHIBATA**  
**金 柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南  
大阪・高麗橋2丁目

神戸 341-0693  
大阪 231-2106

新春のフレームの装い



'73型ワールドフレームの数々を品揃え致  
しております。お気軽にフレームでのメ  
イクアップをしてはいかがでしょうか？



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎ (321) 1212 代表  
三宮店・さんちかタウン ☎ (391) 1874～5

あたたかさで—  
お部屋を飾ります。  
手づくりの味 ゴンチャロフ



Goncharoff